

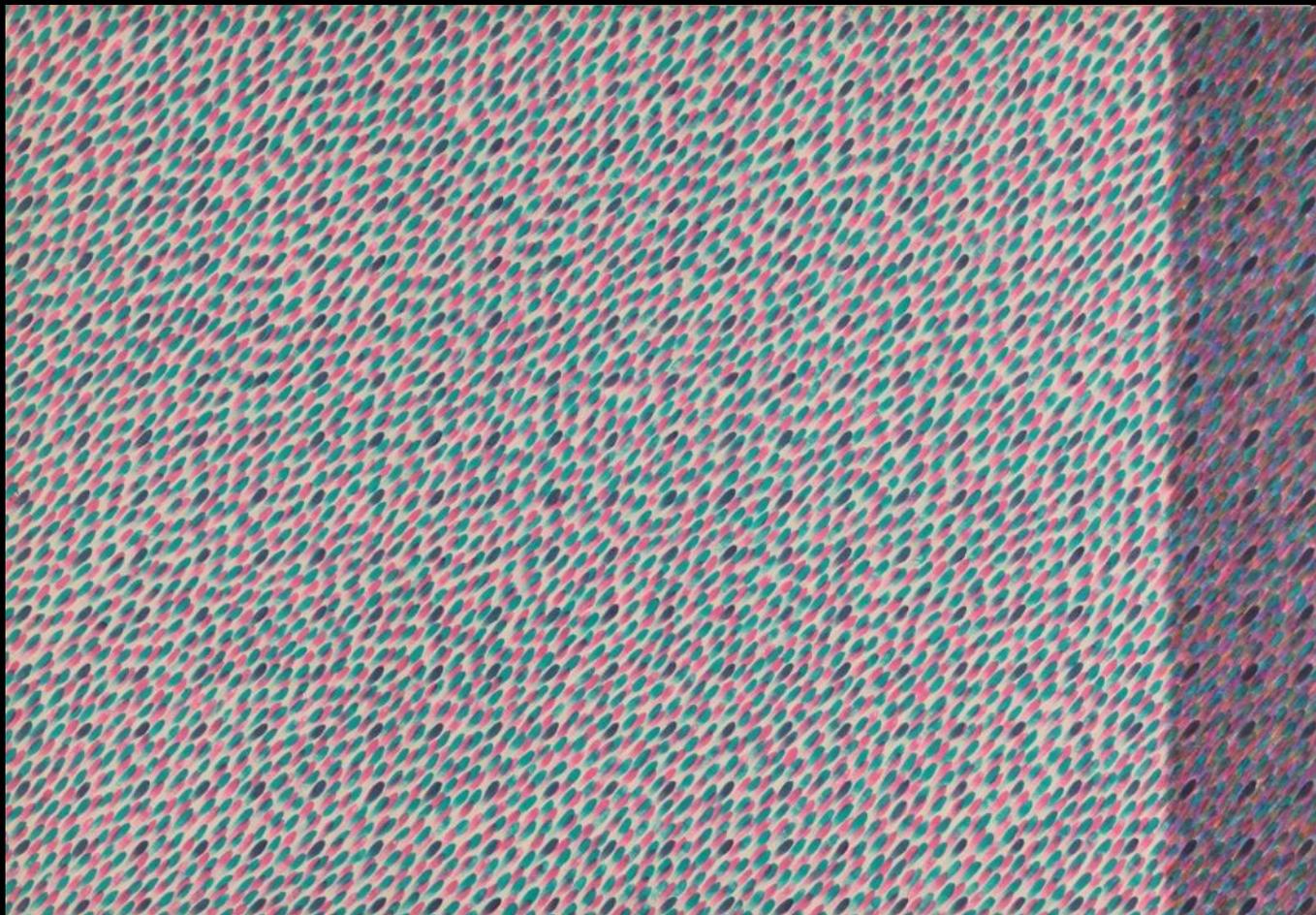
「没後30年 諏訪直樹展」
ガイドツアーⅠ

初期に描かれた7点組の作品です。

1点、1点を別々に見るのではなく、このように等間隔に並べて全体を見ると絵の意図するところがわかってきます。どの画面も大きく分けて2つの区画からなりますが、同じ色合いの区画が、隣り合う画面につながっています。全体として見ると、画面をまたがって同じ大きさの区画が並び、実際の画面から少しずつずれて続いていくように見えるのがわかるでしょうか。

タブロー（壁画などではなく単体の板絵やキャンバス画のこと）としての絵画芸術は通常、ひとつの画面の枠のなかにひとつの完結した世界を描きだすものと考えられています。それに対して、この7点組の作品は、隣り合う画面との連続、関係のなかではじめて内容を明らかにします。このように諏訪直樹は、初期の頃から絵画が成立する根本的なあり方を問い直すような制作を行っていました。





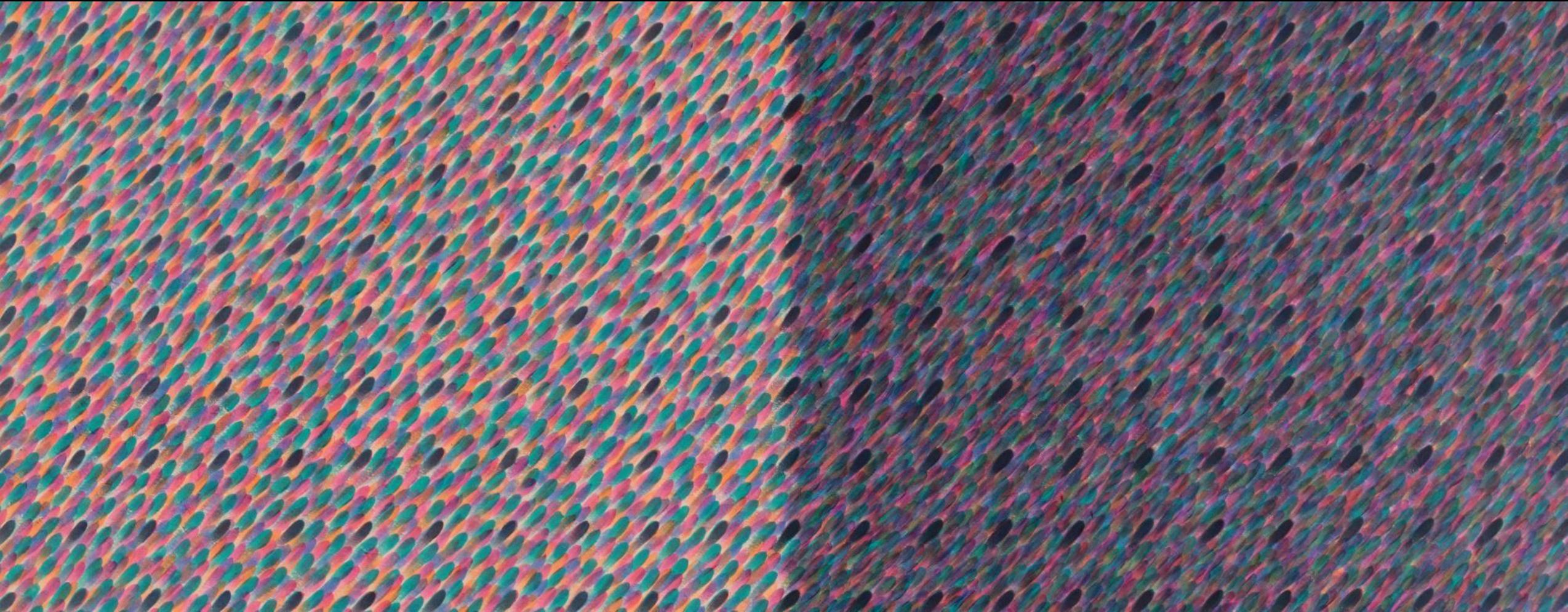
さて、もう少し画面を細かく見ることにしましょう。いくつかの色合いの違う区画は、どのような方法で塗り分けられているのでしょうか。一番左のパネルを見ると表現の仕組みがわかりやすいでしょう。画面の色合いはいくつかの色のドット（点）が多数置かれることによって作られていることがわかります。ドットというより画面に対して斜めに置かれた筆のタッチ（筆触）というべきでしょうか。

IN・CIRCLE NO.1 1977年

この絵の全体は、いくつかの色のタッチの反復、集積だけで成り立っています。それぞれの区画ごとに段階的に異なる色合いや濃淡は、タッチの周到に計算された配置や密度にもとづくのです。



色はいくつ使われているでしょうか。特に濃い色のタッチが縦横7cmほどの間隔で並んでいます。これはすべての色のタッチが重なった部分であると思われます。色のシステムについては、次の作品で少し詳しく見ることにしましょう。



無題1977 1977年

これも初期の作品です。《IN・CIRCLE NO. 1》よりもひとつ前の画家の試みを示していると思われます。

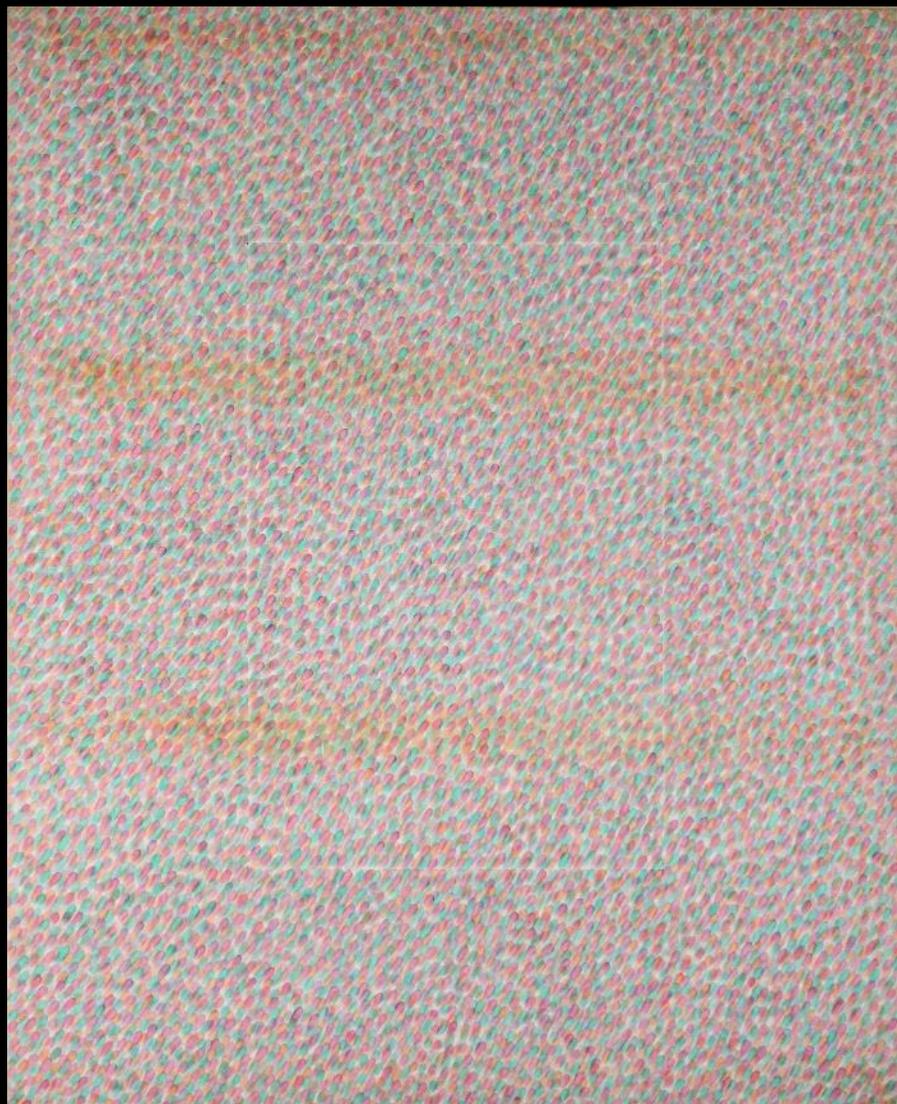




ここでも各画面を作っているのは斜めのタッチ（筆触）の集積です。7点のうちタッチが最もまばらな一番左の画面をまず見ることにしましょう。ひとつひとつのタッチのかたちがよくわかります。

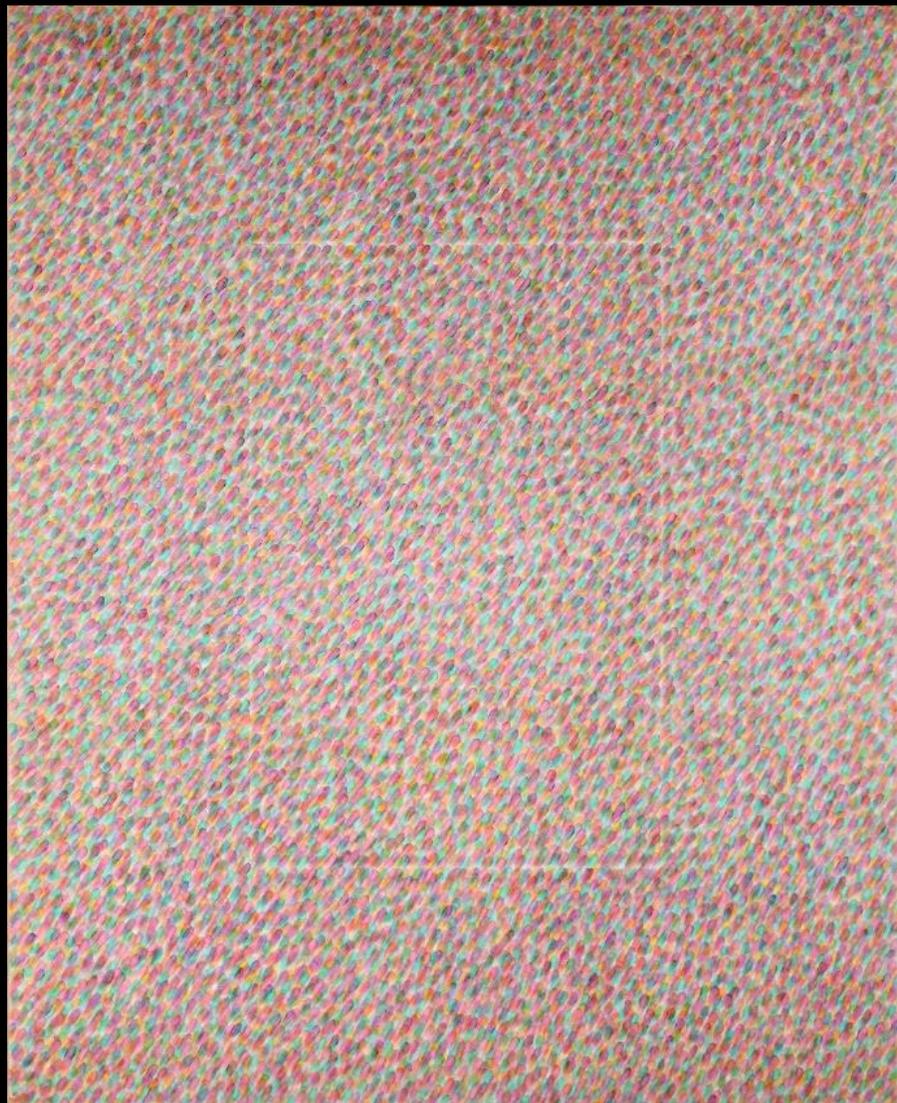
斜め45度に向けて太い筆をおろしたような、はっきりとした方向を持つタッチが繰り返されています。タッチは例えば縦横や斜めの直線上に等間隔に並んでいるわけではありません。しかし、何らかの法則によって画面全体にほぼ等しい密度で配置されています。タッチの大きさやかたちもほぼ等しいとはいえ、厳密に同じではなく、こうした微妙な不規則さが画面に機械的、幾何学的ではない揺らぎや動きのような感じをもたらしているように思いますがどうでしょうか。

一番左の画面ではタッチの色は、赤と緑だけです。これは補色の関係にある2色です。補色とは、三原色の1色（例えば赤）と、あとの2色を混ぜた色（黄+青＝緑）との関係のことで、赤と緑、青とオレンジ、黄と紫が補色の関係です。



左から2番目の画面では、赤と緑のタッチに加えて、別の補色関係の2色、青とオレンジのタッチが同様の密度で画面全体に配置されています。さらにその次の画面ではおそらくもうひとつの補色の組み合わせ、黄と紫のタッチが加えられているのでしょうか。さらに画面が進むごとにタッチの数、密度が段々と増していくようです。このまま行くと最後はどうなるのでしょうか。三原色を全部混ぜると黒になります。





左から2番目の画面では、赤と緑のタッチに加えて、別の補色関係の2色、青とオレンジのタッチが同様の密度で画面全体に配置されています。さらにその次の画面ではおそらくもうひとつの補色の組み合わせ、黄と紫のタッチが加えられているのでしょうか。さらに画面が進むごとにタッチの数、密度が段々と増していくようです。このまま行くと最後はどうなるのでしょうか。三原色を全部混ぜると黒になります。



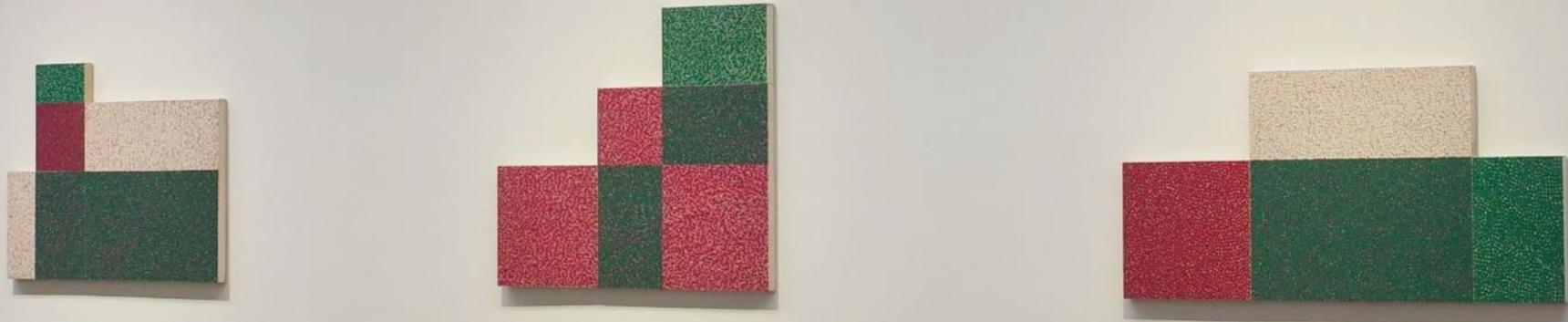
無題1977 1977年

どの画面にも真ん中に長方形の輪郭がぼんやりと浮びあがっているところにも注目してください。画面にあるのは色のタッチだけで、線は引かれていないのにタッチの配置の仕方、長方形があるように見えているのです。

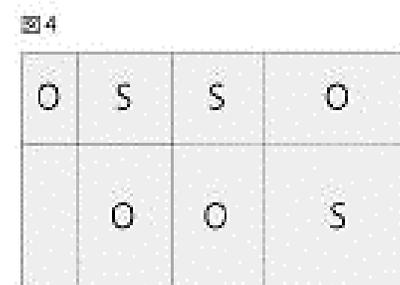
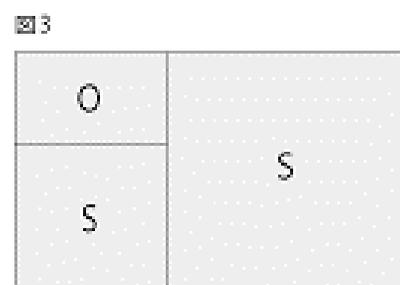
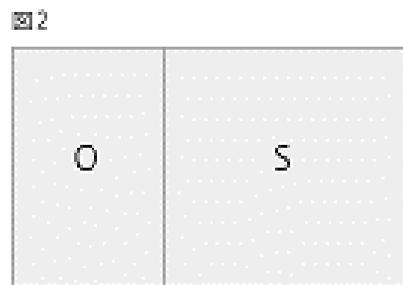
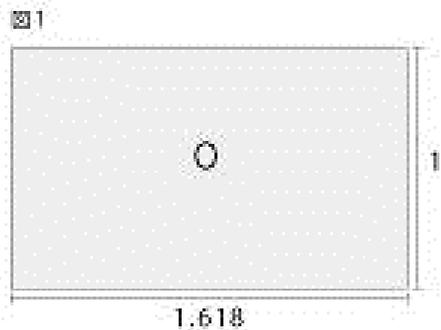


The Alpha and the Omega M-1 The Alpha and the Omega M-2 The Alpha and the Omega M-3 1978年

黄金比あるいは黄金分割という言葉をご存じの方も多いでしょう。古代から知られる、調和がとれた美しい比率とされているもので、その値はおよそ1：1.618です。諏訪直樹はこの比率を多くの作品の制作に利用しました。



この3点の作品は、この比率にもとづく長方形、黄金長方形をもとにしています（図1）。この長方形の面白いところは、2つに分割すると正方形（S）と黄金長方形（O）ができることです（図2）。できた黄金長方形を分割するとさらに小さい正方形と黄金長方形になります（図3）。いっぽう、大きいほうの正方形を黄金比で縦横に分割すると大小の正方形と2つの黄金長方形になり、分割をすすめれば正方形と黄金長方形がいくつもできます（図4）。



さて、図4のかたちを3点の作品と比べてみましょう。じっくり見比べると、3点の画面はいずれも図4の左上角の黄金長方形を切り取って別のところに接合したかたちになっていることがわかります。

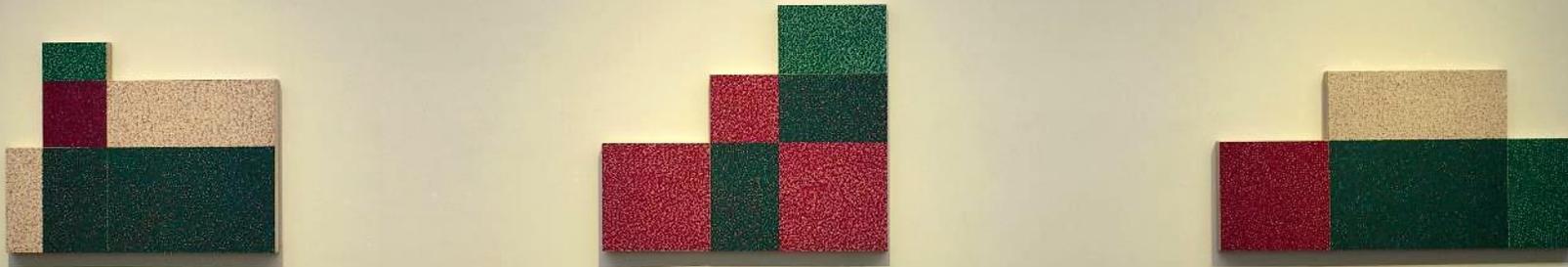
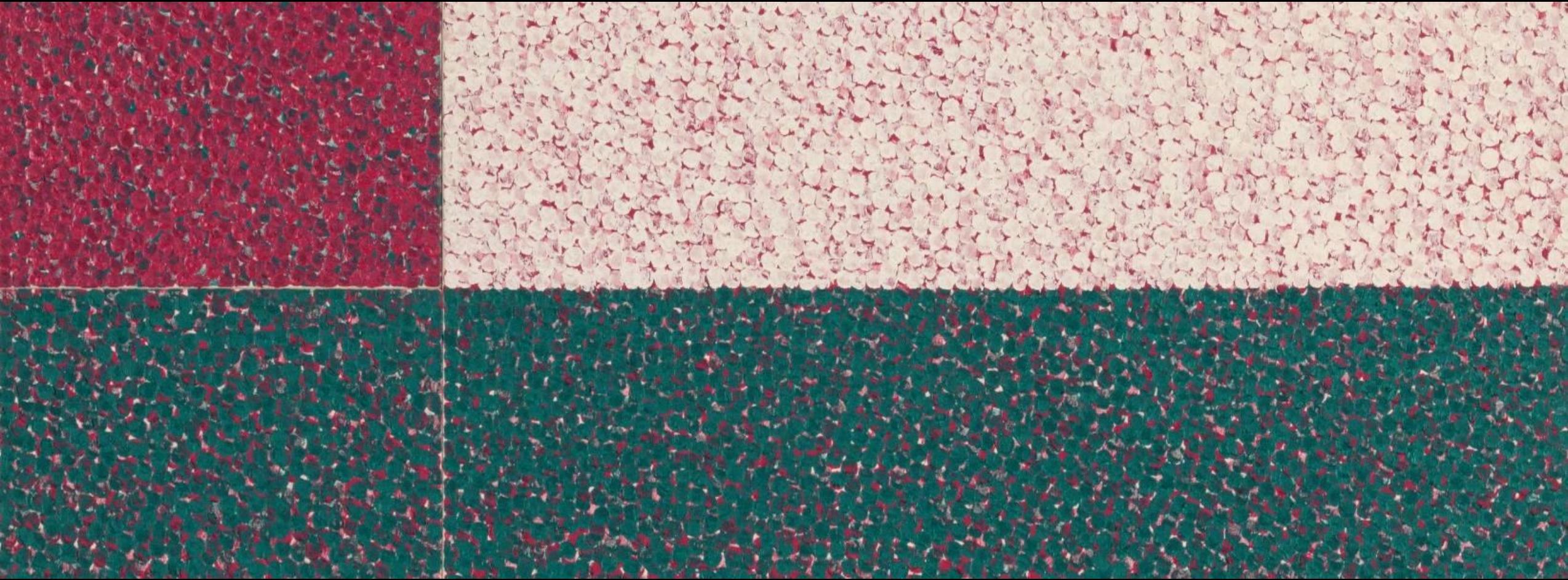


図4

0	S	S	0
	0	0	S

では、画面はどのように彩色されているのでしょうか。使用されている色は、補色関係の赤と緑、そして白の3色だけです。しかし、どの色も一様に平坦に塗られているのではなく、やはりドット（点）の集積です。ドットとドットの間にはわずかに隙間があることから、下に塗られた色が見えます。単純な塗り分けではなく、やや複雑で重層的な色彩構成と言えます。



作者によると、この彩色もある規則、システムにもとづいています。諏訪は、画面のなかの正方形を赤い点で、黄金長方形を緑の点で、それ以外は白い点で埋めると記しています。

この言葉を踏まえて画面をよく見ると、塗り重ねの意味が分かります。例えば、はじめ正方形と認識されていた範囲（赤）が分割されて、2つの正方形（赤）と2つの黄金長方形（緑）になる、あるいは黄金長方形（緑）とそれ以外（白）になる。しかし、その場合ももとの正方形（赤）の認識が絵具の下層に残っているのです。



前ページの作品の翌年に諏訪が発表したシリーズのひとつです。見た目には変化がありますが、基本的には前年の方法をさらに展開した作品です。

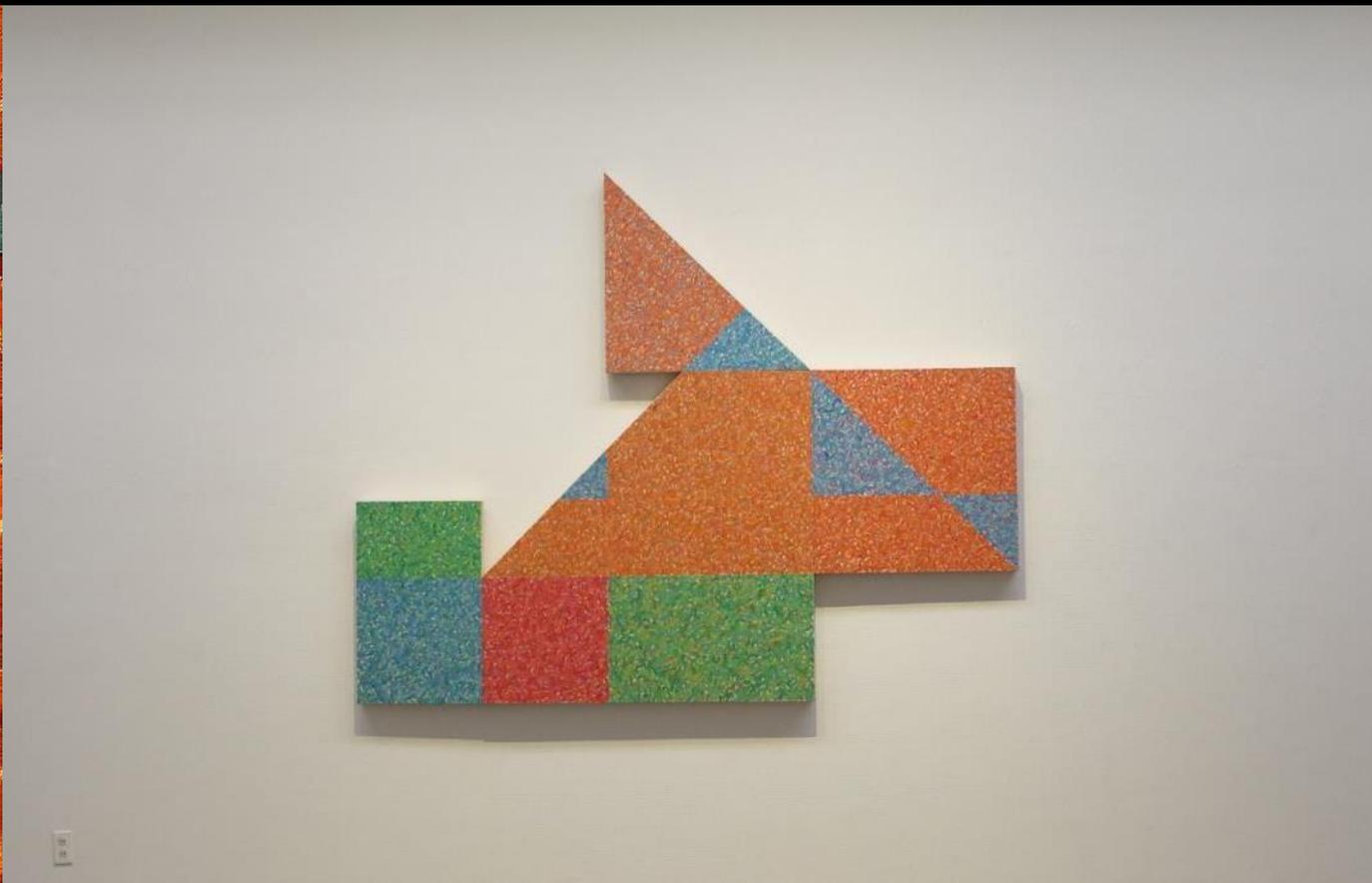
やはり黄金長方形と正方形が基本の枠組みです。しかし、大きな違いは斜め45度の線が導入されていることで、画面全体もよりダイナミックな変化に富んだかたちをしています。



The Alpha and the Omega MD-8 1979年

色彩は、赤と緑に加えて、別の補色の組み合わせ、青とオレンジが加わりました。正方形は赤、黄金長方形は緑という原則は同じですが、斜線によってできる直角二等辺三角形が青、その残りの範囲がオレンジといったようなルールが追加されているようです。

うねるような曲線による生き生きした筆致や、各色が3種ほどの異なる色合いで彩色されていることなど、新たな要素に注目ください。そして、前作と比べて諏訪の画面が少しずつ物理的な厚みを増して壁から突出していることに気づきましたか？ これらの要素は次の作風の変化につながります。（IIにつづく）



このPDFファイルは、三重県立美術館の「コレクションによる特別陳列 没後30年 諏訪直樹展」（2020年2月1日－4月5日 *ただし2月29日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉室中）会場で配布しているパンフレットのテキスト（執筆：速水豊）を会場風景や作品写真とともに再構成したものです。図1－4はパンフレット（デザイン：川村格夫 | ten pieces）のデータを転用。ファイルは前半（I）と後半（II）に分かれており、現在ご覧いただいているものが前半です。無断転載はお控えください。

「没後30年 諏訪直樹展」ガイドツアーI 2020年3月21日発行 ©三重県立美術館

作品リスト(前半 *本ファイルに画像を掲載していない作品も含まれます)

作品名	制作年	技法・材質	形状	寸法 (cm)	初出	備考
1 無題 1976	1976	アクリル・綿布		162×130.5	個展「饒舌な平面vol.1」1977年	諏訪桃子氏寄贈
2 無題 1977	1977	アクリル・綿布	8点組中の7点	各162×131	「平面77展」（神奈川県民ホールギャラリー）1977年	諏訪桃子氏寄贈
3 IN・CIRCLE NO.1	1977	アクリル・紙、パネル	7点組	各110×160	個展「饒舌な平面vol.5」1977年	
4 The Alpha and the Omega M-1	1978	アクリル・綿布、パネル		110×145×5.6	個展「The Alpha and the Omega」1978年	諏訪桃子氏寄贈
5 The Alpha and the Omega M-2	1978	アクリル・綿布、パネル		125×145×5.6	個展「The Alpha and the Omega」1978年	諏訪桃子氏寄贈
6 The Alpha and the Omega M-3	1978	アクリル・綿布、パネル		90.0×180×5.6	個展「The Alpha and the Omega」1978年	諏訪桃子氏寄贈
7 The Alpha and the Omega MD-8	1979	油彩・綿布、パネル		194×240×6.5	個展「The Alpha and the Omega」1979年	諏訪桃子氏寄贈